

# 近畿中国局フォレスターNEWS

## ケーススタディ地区の取組（広島県神石高原町）



神石高原町役場 神石支所

近畿中国森林管理局は平成28年度に神石高原町をケーススタディ地区に設定し、広島県、広島北部森林管理署、広島森林管理署の森林総合監理士(フォレスター)等が連携して、同町森林整備計画の実行に向けた支援等に取り組んでいます。

地区設定後の平成28年度の主な取組としては、①8月30日、「低密度植栽育林技術体系導入の普及検討会」の開催、②11月10日、「低コスト再造林現地検討会」の開催、③3月1日、「公益的機能維持増進協定」の締結、④3月8日、神石郡森林組合と「福永区域森林整備推進協定」の締結を行いました。(関連ニュースとして、平成27年度6月号、8月号、9月号、2月号、平成28年度5月号、9月号、12月号を参照ください。)

平成29年度は、9月1日に、広島県、神石高原町、神石郡森林組合、広島北部署により、第2回ケーススタディ地区打合せを行いました。

当日は、同地区での取組概要(平成28年度取組、平成29年度の支援メンバー等)や新たな森林共同施業団地の候補地等について打合せを行った後、昨年度設定した福永区域森林共同施業団地に場所を移動し、今年度の事業状況(民有林、国有林)や路網配置、接続状況等について確認しました。

また、新たな団地化については、県営林担当者等とも情報共有や連携を図りながら検討を行っていくこととしました。

広島北部署は、今後も同地区の取組を積極的に進めていきます。



森林作業道の接続ポイントの確認  
(大造山国有林)

## 兵庫県立山の学校の生徒を対象に体験林業を実施

兵庫森林管理署は、平成26年3月18日、これからの地域林業の発展と宍粟市・兵庫県を担う高校生や青少年を育成することを目的に、宍粟市、兵庫県光都農林水産振興事務所、兵庫県立森林林業技術センター、しそ森林組合、兵庫県立山崎高等学校、兵庫県立山の学校の森林林業関係6団体と連携・協力していくための「しそ連携協定書」を締結しています。

兵庫署は、この協定に基づき、9月14～15日、兵庫県立山の学校の生徒12名を対象に、有ヶ原国有林において枝打作業の実習を行いました。実習では、兵庫署森林技術指導官と波賀森林官から作業方法の説明と安全指導を行った後に、実際に作業を行いました。

初めて枝打作業を行う生徒たちは、横で見ていた高さ、実際に梯子に登った時の高さの違いにやや腰が引けたようで、最初は恐る恐る梯子に登り枝打ちを行っていましたが、すぐに慣れ作業の効率も上がっていきました。

また、9月20日、兵庫県立山の学校において兵庫署総括森林整備官と森林技術指導官から林業専用道の説明を行い、その後、雪彦山国有林に移動して、林業専用道新設工事箇所を見学しました。

新設工事を初めて見学した生徒たちに、「先日まで山だった箇所を建設機械で掘削し、道を作っている。」と説明したところほとんどの生徒が「にわかには信じられない様子だったので、実際に建設機械が山を掘削している現場に連れて行くと、驚きの言葉が出てきて感動したようでした。」

兵庫署は、今後も関係団体と連携して、地域林業の発展と宍粟市・兵庫県の林業を担う高校生や青少年を育成するための取組を進めていきます。



枝打の実習(有ヶ原国有林)



林業専用道(雪彦山国有林)

## 林業成長産業化地域創出モデル事業（和歌山県）



風呂谷国有林

林野庁は、平成29年4月、地域の森林資源の循環利用を進め、林業の成長産業化を図ることにより、地元利益を還元し、地域の活性化に結びつける取組を推進するため、「林業成長産業化地域」を選定したところであり、この地域の一つに和歌山県田辺地域があります。

また、林野庁は、地域創出モデル事業の森林資源情報整備技術実証事業における実証試験として、林業成長産業化地域内の国有林において、最新のICTを活用した簡易で精度の高い森林資源情報や位置、面積情報を把握する技術実証を行い、他の手法との比較検証等を行うこととしています。

こうした中、9月27日、和歌山森林管理署は、田辺市の風呂谷国有林において実施された実証試験を和歌山県の担当者とともに視察しました。

当日は、事業受託者から、地上型レーダースキャナーによる計測方法やパソコンのディスプレイ上に3D化して表示させた実際の計測結果についての説明がありました。今後、実証試験の分析結果を、従来の国有林の手法で行った調査等との精度、工程等の観点から比較し、この成果を地域内の関係者と共有していくこととしています。

今回の視察により、署及び県の担当者は、最新のICTを活用した森林資源情報の調査技術を学ぶことが出来ました。

和歌山署は、今後も和歌山県、田辺市と疎通連携して、林業成長産業化地域創出モデル事業に取り組んでいきます。



風呂谷国有林

## シカ被害防護対策・列状間伐の普及に向けた現地検討会を開催

近畿中国森林管理局は森林総合研究所関西支所と連携した取組として、10月12日、岡山県備前市の大師谷国有林で、シカ被害防護対策（シカ被害から植栽木・稚幼樹を守るために）の現地検討会、10月13日、同県新見市の入開山国有林とおかやまの森整備公社造林地で、列状間伐による山づくり（森林管理局最初の列状間伐（平成2年実施）実施林から考える）の現地検討会を開催しました。2日間で、林野庁、四国森林管理局、近畿中国森林管理局管内の林木育種センター関西育種場、府県、府県研究機関、県公社、市町村、森林組合、鳥獣被害対策協議会等から、延べ166名の参加がありました。

1日目は、森林総研多摩森林科学園小泉研究専門員から①シカ被害対策のための基礎知識、森林技術・支援センター副所長から、②防護柵による効果的なシカの防除、③シカの首用くくり罠の有効性について説明した後、参加者全員で斜め張り防護柵、飛び越え防止テープ、シカ侵入の痕跡などを実際に間近で観察しました。

2日目は、局技術普及課長からの列状間伐のメリット・実施状況・低コスト効果についての説明の後、公社造林地に移動しました。現地では、新見市森林組合から森林組合の概要や定性間伐とのコスト比較について説明するとともに、定性間伐から列状間伐へ切り替える際にどのように森林所有者から納得を得たかについて、経験に基づいて具体的な説明があり、参加者からは定性間伐にこだわる所有者の説得の参考になったとの感想がありました。

その後、入開山国有林に移動して現地を視察しました。現地では、森林技術・支援センター所長と同センター森林技術普及専門官から、無間伐箇所の状況説明、列状間伐実施箇所の施業履歴、列状間伐を実施しようとする際のためらいに対して、①方法によっては間伐効果が十分に期待でき、しかも今日の社会・経済的状況からみるとメリットも大きいこと、②幹の偏心は樹幹の偏倚による考え方が有力であること等を説明しました。最後に、森林総研関西支所の主任研究員から、列状間伐の利点と作業上の要点を説明して、2日目を終えました。近畿中国森林管理局は、引き続き森林総合研究所関西支所と連携し、国有林をフィールドとした現地検討会を開催して、民有林等への普及・定着を推進していきます。



大師谷国有林



列状間伐施業地（入開山国有林）

## 森林総合監理士実践研修を開講（近畿中国森林管理局）



現地検討（古谷国有林）



テーマ別の発表

林野庁では、市町村森林整備計画の策定等市町村への指導・助言の役割を担うべき森林総合監理士等の技術的水準の維持向上を図るために実施する継続教育として、現地検討及び討議を通じて現場レベルの課題解決策を共有する実践研修を実施しています。

こうした中、全国7ブロックで行われる実践研修の一つとして、10月25日～27日、近畿中国森林管理局は岡山県新見市の森林技術・支援センターにおいて実践研修を開講し、府県と国有林の職員17名が受講しました。

今回の実践研修では、テーマを「一斉人工造林地のゾーニング～目標林型を想定したゾーニングと今後の施業方針～」と「天然力を活用した森林づくり～成功のポイントと今後の施業方針～」の2つに設定し、4班に分かれて、1日目に講義受講と現地検討に向けた既存資料での机上調査を行いました。

2日目は、古谷国有林527林班に移動して踏査し、地形の状況、林地のha当たり本数、樹高、径級、広葉樹の侵入歩合等について現地検討を行いました。その後、森林技術・支援センターに戻り、KJ法によるグループ討議と翌日のKP法による発表の準備を行いました。

3日目は、テーマ別に2班ずつに分かれてKP法により発表しました。

受講生からは、「天然更新で目的の樹種を生育させることは、思っている以上に手間が掛かることが分かった。」、「西日本は大きな種子の樹木が多く、天然更新がより難しいことが分かった。」、「森林整備を提案する際、科学的根拠に基づいて説明する責任があり、そのためには経済的要素を取り入れるための知識向上も必要だと思った。」等の意見がありました。

## 低密度植栽育林技術普及研修会（山口県主催、広島県で開催）

10月31日、山口県主催の低密度植栽育林技術普及研修会が、広島県神石高原町の坂瀬川区民会館並びに広島森林管理署管内の新元重山国有林（福山市）で開催されました。

当日は、山口県から17名、山口県農林総合技術センターから1名、山口県の森林組合から6名、計24名の出席があり、山口森林管理事務所、広島森林管理署から5名が参加しました。

まず、神石高原町の坂瀬川区民会館に集合し、山口県森林整備課造林保護班長から、森林施業の低コスト化に向けた山口県の取組についての講義があり、広島署総括森林整備官が、低密度植栽実証地における育林技術について説明しました。

その後、新元重山国有林に移動して、ヒノキをha当たり1,000本、1,500本、2,000本、3,000本を植栽している低密度植栽実証地において、府中首席森林官から施業履歴等を説明しました。

意見交換では、「2,000本植栽地は間伐を実施しているが、3,000本植栽地と比較しても違いはない。」、「山口県としても森林施業の低コスト化を推進し、市町有林等への技術普及を図っていきたい。」との意見がありました。広島署と山口所は、今後も低密度植栽育林技術の普及に向けた取組を継続して取り組みます。



講習（座学）坂瀬川区民会館



低密度植栽実証地 新元重山国有林

林野庁

近畿中国森林管理局

技術普及課



国民の森林・国有林

TEL : 06-6881-3524 FAX : 06-6881-2055

URL : <http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

## 編集後記

近畿中国森林管理局が10月に開講した森林総合監理士実践研修は、日本に影響を与えた台風21号・22号の接近・上陸の間隙を縫って、快晴の中、無事に終えることができました。これも、受講生の皆様の日頃の行いが良かったのでしょうか。この研修がきっかけとなって、地域の森林づくりに民国連携して取り組んでいただければと思います。